

第15回オンライン研究会

2022年 **9月24日(土)** Zoom 開催
9:00 ~ 17:30

午前の部 9:30~12:40

- 個人報告**
- 1** 石田智巳 (立命館大学産業社会学部)
「丹下保夫の運動文化論構築過程における春田正治の影響：春田-丹下論争について」
 - 2** 内海和雄 (一橋大学・広島経済大学：名誉教授)
「人間はなぜ、スポーツをするのか：
第1部：直立二足歩行は人体に何をもたらしたのか-起源・歴史
第2部：スポーツとは何か-本質・構造・機能」
 - 3** 村下貫一 (立命館大学大学院社会学研究科 博士後期課程)
「二つの合気道における中心原理と「競技性」：
近代スポーツとの異同をめぐる文化的闘争を背景として」

午後の部 13:40~17:30

情報交換 テーマ
運動部活動の地域移行について

報告者 大野木龍太郎
(静岡大学教育学部非常勤講師/フリースクールドリームフィールド副理事長)

課題研究報告 テーマ
これからのスポーツを考える

- 1** 市井吉興 (立命館大学)
「ストリートスケートボード Vs. パークスケートボード!?
：スケートボードの「真正性」をめぐる諸論点」 (仮題)
- 2** 山下高行 (立命館大学名誉教授)
「SDGsの提案とスポーツの未来について」 (仮題)

お問い合わせ スポーツ科学研究所事務局 メール science@njsf.net

これからのスポーツを考える

①市井吉興(立命館大学)

「ストリートスケートボード Vs. パークスケートボード!?

：スケートボードの「真正性」をめぐる諸論点」(仮題)

②山下高行(立命館大学名誉教授)

「SDGs の提案とスポーツの未来について」(仮題)

一つ目の報告として、市井吉興氏により2020東京オリンピック後に関心が高まっているスケートボードについての報告を行う。本報告では、2020東京オリンピック後に進められるスケートボードパーク建設を通じて、クローズアップされるようになった「スケートボードの真正性」について、検討を試みる。本報告では「スケートボードは本来、ストリート発祥のストリートスポーツであるから、パークを作ってそこでスケートボードをさせるのは、本来のあり方ではない!」という批判的な言説を読み解くことから、考察を進めたい。このような作業を通じて、スケートボードのみならず、ライフスタイルスポーツのような新しい文化形態の表れが、スポーツの今日の場合と未来に関して何を意味しているのかという点を探る。

二つ目の報告として、山下高行氏によりSDGsの提案とスポーツの未来について、総論的な説明と文化論的な観点からの論点提示を行う。スポーツ庁の取り組みの遅滞とは別に、2022年3月、日本スポーツ振興センター(JSC)により『SDGs達成に向けたスポーツの活用ガイドブックスポーツを通じた社会課題解決のための政策／事業の設計・実施・モニタリング・評価方法』のガイドブックが公開されたが、このガイドブックはJSCと「スポーツと開発に関する国際プラットフォーム」が様々なパートナーと連携して作成したものである。IOCや国際パラリンピック委員会もアドバイザー・コミッティーメンバーに含まれている。このガイドラインについて、文化論とグローバルガバナンスの観点から言及したい。

お申込み方法

下記の事務局メール(または電話・FAX)で「お名前」「メールアドレス」「電話番号」を事務局に伝えて、お申込みください。後日、Zoomの入室アドレスをお送りします。

スポーツ科学研究所事務局

メール science@njsf.net TEL 03-5834-8726 FAX 03-5834-8723